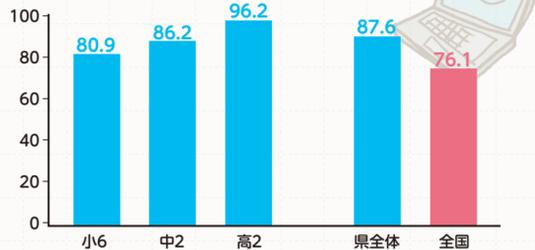


平成27年度 インターネット利用に関するアンケート結果

県内の小学校6年生、中学校2年生、高等学校2年生とその保護者、未就学児(年長児)の保護者、それぞれ約500名を抽出して、インターネットの利用に関するアンケートを行いました。(対象機器:携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン、携帯音楽プレーヤー、携帯ゲーム機、据え置き型ゲーム機)

インターネットを利用している割合



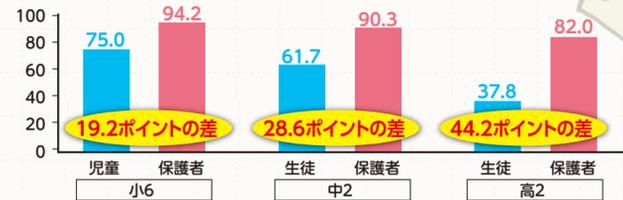
いずれかの機器を使ってインターネットを利用している割合は全体で9割弱(全国平均76%)です。中でもスマートフォン、パソコン、携帯音楽プレーヤー、携帯ゲーム機を利用しているケースが多くなっています。*子ども専用の機器だけでなく、親や家族の機器を使ってインターネットを利用している場合も含まれます。

子どもたちに「フィルタリング・機能制限」「ルール作り」で安心・安全にインターネットを利用させることは保護者の責任です。

最新のインターネット事情をわかりやすくお話しする「鳥取県ケータイ・インターネット教育推進員」を保護者対象の講演会に派遣しています。(費用は無料です)

問合せ先 県教委社会教育課
HP: <http://www.pref.tottori.lg.jp/shakaikyouiuk/>
電話 0857(26)7520 FAX 0857(26)8175

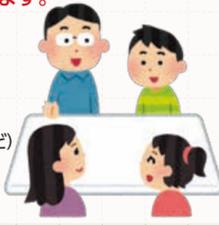
インターネットの利用について「家庭で何らかのルールがある」と回答した児童・生徒と保護者の割合の比較



保護者と子どもではルールについての認識に差があります。家族でしっかりと話し合ってルール作りをしましょう。

<話し合いたいルールの例>

- 利用時間、使い方を決める、目的に応じた機能に設定するなど
- 1日に使う時間(何時間以内、何時以降は使わないなど)
- 使っていない場所(保護者の見ているところで、外では使わないなど)
- 困ったことがあったら、すぐ家の人に言う
- ルール違反があったら使用を禁止する など



ゲーム機や音楽プレーヤーにはペアレンタルコントロール機能が有り、使用制限を設定することができます。

- ゲームソフトの使用制限(ソフトの年齢制限)
 - インターネットの閲覧制限
 - コミュニケーション制限(見知らぬ人との出会いを防ぐ)
 - クレジットカードの利用制限 など
- 鳥取県民チャンネルコンテンツ協議会の動画コンテンツで設定方法を見ることができます。設定方法がよくわからないと思われる方は、是非ご覧ください。

鳥取県民チャンネル 動画 検索



本でつなぐわたしたちの未来プロジェクト 2015

中学生ポップコンテスト

上原投手にインタビューしました!!
～読書は大切な時間～



インタビュー概要

Q: 上原投手にとって読書とは?

A: 野球から離れた時、読書は気分転換になる。自分にとって大切な時間。

Q: 本を読むことはどんなことに役立つか?

A: 文章を書くことがうまくなると思う。分からない言葉は辞書で調べたりして、いろいろな言葉を勉強できる。

Q: 不安な時の気持ちの持ち方は?

A: 不安な時こそ普段と同じリズムで過ごすことを心がける。流れを変えることなく、特別なことをしない。

Q: 努力しても報われないと思うことがある。それを乗り越えるためにはどうしたらよいか?

A: 努力は絶対に裏切らない。もう一歩の努力がなければ、限界を作ったはいけない、自分はダメだと思わないことが大事。

Q: 野球をする上で何が一番大事か?

A: 仲間。野球は一人ではできない、仲間を信用すること。



鳥取県教育委員会では、「鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン(第3次計画)」(H26.3策定)に基づく子どもの読書推進施策の一環として、読書離れの傾向が見られる中学生が自ら本を読み、その大切さや楽しさを感じることを目的として「中学生ポップコンテスト」を行いました。(応募作品数732点)

平成28年1月8日には推薦図書最優秀賞受賞の副賞として、中学生10名が東京都内で上原浩治さん(ポストレッドソックス投手)にインタビューしました。

上原さんからのメッセージ

これから先の人生、挫折も壁もある。でもそれを生かしていくのが人生。絶対にあきらめず突き進んで欲しい。努力は絶対に裏切らない。



インタビューを終えて…(生徒たちの感想)

❖一番心に残っているのは「限界をつくるな」という言葉です。「練習は嘘をつかない」という言葉を信じて、毎日一生懸命頑張っていました。

❖「あきらめない気持ち」と「努力し続けること」の大切さを改めて知りました。私は「努力したのに結果がでない」と思っていたけれど、「努力は絶対に裏切らない、もう一歩の努力が必要だ」とアドバイスをいただき、自分はまだまだ努力が足りないんだと感じました。

❖「なるようにしかならない」という言葉がとても心に残りました。気持ちを新たに目標を持ち、今日からがんばっていこうと思います。

❖「身の回りで応援してくれる人を大切にすること」という言葉が特に印象に残りました。両親や応援してくれる友だち、指導して下さる先生がいるからこそできることもあると改めて感じることができました、そういう人たちを大切にしていこうと強く思いました。

問合せ先

県教委社会教育課 電話 0857(26)7943 FAX 0857(26)8175

ひとつの勇気からSTOPいじめへ

子ども未来フォーラム

いじめを生まないために私たちができることを考えよう

1月24日(日) たくさんの方々とともに、勇気・仲間づくりの大切さについて一緒に考えることができました。

渡部陽一氏トークショー 戦場カメラマンが見た世界の学校と子どもたち

- 不安なときや壁にぶつかったときには焦らなくていいんだよ
- 相手のことを知ることが大切
- それを共有することが大切
- ということをゆっくりとした独特の口調で語りかけてくれました。



参加者アンケートより

- 無関心をなくすることが大切であると思った。相手の立場に立ち、少しでも相手を理解する姿勢が必要と思った。
- いじめには興味がなかったが、関心が出てきたので、こういう場を何回か持つことが大切なのでは?

学校におけるいじめ未然防止の取組発表

● 倉吉市立上灘小学校PTAの取組
保護者が子どもに生き方を示して、しっかりと支えていくことの大切さを述べられました。

● 北栄町立北条中学校の取組
～ねばりっこプロジェクト～
「いじめをなくす3カ条」の意識を高め、いじめをなくすためにねばり強く取り組んでいくための具体的な提案をされました。

● いじめ撲滅宣言を中心とする三朝町立三朝中学校の取組
「いじめ撲滅宣言」作成、人権集会、人権弁論等の取組を紹介し、一人一人が自分の意見を言うことの大切さを伝えられました。



中部地区中学生・高校生、渡部陽一氏によるパネルディスカッション 「次の一歩を踏み出す勇気」

傍観者がいじめをやめさせるように行動するには何が必要か、自分にできることは何だろうか等について、体験をふまえた自分の意見を堂々と述べてくれました。



「笑顔でつながる缶バッジデザインコンクール」最優秀作品

部	最優秀作品
小学校低学年の部	武安 桜人さん 鳥取市立 岩倉小学校2年
小学校中学年の部	すきざき のあ 倉吉市立 成徳小学校3年
小学校高学年の部	いくた りこ 生田 莉子さん たけだ のあ 竹田 乃彩さん 米子市立 住吉小学校6年
中学・高校生の部	かじら りさ 梶谷 理咲さん 県立鳥取東高校 2年

みんなの気もちがなかよくなるように、心をバズルであらわして、1つの大きなハートをえがきました。

友だちと仲よく手をつないで、心もつながりたいと思ってかきました。字も筆ペンで力強く書きました。

いじめられている人の心の中の涙を止められる「心友(しんゆう)」になろうという意味で、このデザインにしました。「親友」と「心友」をかけました。

一人一人が相手を尊重し、思いやることで、あなた自身の色も鮮やかに、また、あなたのまわりにもたくさんの方が広がる、ということを表現しました。

問合せ先 県教委いじめ・不登校総合対策センター 電話 0857(28)2362 FAX 0857(28)8513

幼稚園・保育所・認定こども園等と小学校の円滑な接続をめざす取組～育ちと学びをつなぐ～

教職員による相互理解のための保育・授業体験



お互いの教育内容の違いや良さを知り、それぞれの教育の質を高めることにつながります。

小学校区の幼保小連携推進協議会・合同研修会等の開催

小学校区の園・小学校の教職員が集まり、「みんなで地域の子どもを育てる」という意識をもち協議をしています。子どもをどのように育てたいのかという視点で話し合いが進められています。

小学校教員が作成した園の保護者向けおたより

園の保護者に小学校の生活や学習についてお知らせしています。保護者や年長児の不安が軽減されたり、小学校入学への期待感が高まったりしています。

園児と小学生の交流活動

地域の特徴を生かし、お互いにねらいをもって交流をしています。園児は小学生へのあこがれ、小学生は年下の子どもを思いやる気持ちが育ちます。



問合せ先 県教委小中学校課 電話 0857(26)7915 FAX 0857(26)8170